



Crown
e-re for 株
http://www.
圧力調整器・流量計

千葉県溶協 高校生溶接実習を開催

指定機関通信

現役競技会選手によるデモ

千葉県溶接協会(廣田二郎委員長)は3月28・29日の両日、千葉県君津市のサンキョウリサトチアシドクリエイト東日本能力開発センターで2023年度高校生溶接実習を開催。4月に開催の関東甲信越高校生溶接コンテストの千葉県代表選手を含む高校生4人が実習を中心に溶接の基礎を学んだ。

この実習は、コンテストの出場を目指す工業高校生を対象に毎年開催しているもの。開催当初は、関東甲信越高校生溶接コンテストの千葉県代表選手を対象に、競技課題を教材として正しい溶接姿勢

や溶融池の見極めなどの溶接の基本を教えられていたが、近年は代表選手以外の受講を希望する生徒も受け入れるようになった。

一日目の午前中は、安全や溶接の基本的知識の確認のため座学を行っていたが、一日目の午後からは、コンテストの課題を教材として実際にアークを出しての実習となる。また、今回はこの実習で初めての試みとして、会員企業の講師のほか、全国溶接技術競技会で2年連続優秀賞を受賞した小船忠義氏(日鉄テクノスエンジ)と石井尊士氏(日鉄溶接工業)という現役競技会選手を講師に招いての開催となった。

参加した高校生は、それぞれの学校で練習してきただけに慣れた動作で教材に臨んでい

現役競技会選手を講師に招く 実習中心に溶接の基礎を学ぶ

東日本能力開発センター



参加生徒と講師陣

た。代表選手の樋口愛麗さんは「コントロールに参加するにあたり、後進法を選んだ。様々な方法を試した結果、一番やりやすかった。後進法を解説した。教材が少なく悩んでいた。今日は溶接のフロに後進法の手を覚えてもらっただけ、直接指導を受けることができなかった。同じく代表選手の湯浅人さんはコンテストに出場するから、は優勝を目指しているが、これで勝つのか不安だった。今日の実習はクレータの処理方法などいくつかの課題の解決方法を教えてもらったので、また、講師を務めた小船氏は「参加している生徒のレベルの高さから、学校で練習して今日の実習に臨んでいる真剣さが感じられる。生徒達もそれに考え、工夫して色んなやり方を試していることを知り、自分自身の勉強にもなった。同じく石井氏は「教えてすぐに反映する高校生の吸収力の早さに驚いている。どの生徒もレベルが高く我々と同じ(社会人向け)競技会でも十分戦えるだけの実力が感じられる。あとは競技会独特のアプローチさえ克服すれば優勝を狙えるのではないかと、それぞれ参加生徒の実力を高く評価してきたので、